

# 「大会応援伝道に感謝」

稚内萩見伝道所委員 松田君子

1966年4月10日のイースター礼拝から最北の地稚内に於いて井上一央牧師による開拓伝道が開始され、2019年4月8日急逝（84歳）までの53年間をこの地に於いての伝道に働いてこられました。牧師突然の召しに私たちは萩見伝道所がどうになってしまうのか不安でしたが、中会の支えを頂き、札幌白石教会の齋藤義信牧師が指導教職となってくださいました。第1、第2主日は浅井永教師が上川から車で片道5時間かけて10：30からの礼拝に説教奉仕に来て下さり、日帰りで帰られます。第3、第4、第5主日は指導教職齋藤義信牧師からの説教原稿を委員が代読する形で礼拝のお恵みに預かってきました。

大会応援伝道承認のお知らせを頂き、2020年5月23～24日に大会伝道局書記の齋藤修牧師（静岡磐田西教会）をお迎えする予定でした。ポスターもチラシも出来あがり、各教会へのご案内のはがきも発送寸前でしたが新型コロナウイルスの流行のため8月29～30日に延期となり、再度8月初めから準備に入りました。

稚内はポスターを貼らせて頂ける所が少なく100枚作成し、市の一部の施設、町内会館、JR南稚内駅にお願いしました。教会員が各自宅に数枚ずつ貼り、残りは教会の玄関や左右の壁にズラリと並べて貼りました。チラシは150枚を、教会の周辺のお宅に配布、教会員それぞれが知人・友人にお渡ししました。幼稚園は閉園しましたが、幼稚園教諭だった方々や、父母、卒園児の方々に種は蒔かれていますので、その方々もお誘いしました。教会の中はコロナ対策として、会堂を広く使い、離れて座るようにしました。

8月29日（土）は15：00から齋藤修牧師により教会員の研修会を予定しておりましたが、新型コロナウイルスの東京での感染が収まらないことから、稚内にコロナを持ち込まないためにと飛行機のルートを変更してくださいました。そのため土曜日の研修会には間に合わず、大会伝道局理事の中澤禎長老（札幌琴似教会）が講師となって下さり、「日本キリスト教会の3つの特色」と題し、(1) 信仰告白に生きる教会、(2) 長老制の教会、(3) 独立性と公同性を重んじる教会について、わかりやすくお話してくださいました。参加は教会員8名でした。

8月30日（日）応援伝道礼拝は、指導教職の齋藤義信牧師が司会をして下さり、説教は齋藤修牧師による「能力の開発～タラントンのたとえ～」(マタイによる福音書25章14～30節)でした。初来会者が5名おられました。その中に稚内市の水産加工会社に技能実習生としてベトナムから来られている若者の男女が3名おられました。その中のお一人は、その後の礼拝にも来られ、良い交わりができています。礼拝の後には質問コーナーを設けて下さり、三位一体のこと、カトリックとの違い、献金のこと、天国に行くには等の質問があり、お二人の先生によって教会に初めて来られた方にも分かりや

すく丁寧にお話しくださいました。コロナウィルスが流行している時でもありますし、天候もあまりよくなかったですが参加は全部で26名でした。とても良い集会になり感謝でした。今回の説教で、1タラントン預かった者の「蒔かない所から刈り取る厳しい方」だと思っている神理解が間違いであること。神様は小さな者が、小さな者にする本当に小さなことに眼を留めて「よくやった。良い忠実な良い僕だ。」と喜んでくださる方だと思いました。

稚内萩見伝道所は日本キリスト教会の一つの枝でありながら、ほかの教会との交わりをすることもなく、永い間孤立していましたが、この度の大会応援伝道のお知らせのはがきに対し、励ましのお便りを頂き、祈られていることに感謝と喜びでいっぱいでした。

今年1月に、説教奉仕に来てくださっております浅井永教師が、稚内萩見伝道所の牧師として赴任して下さるとの申し出を頂きました。9月29日に教師派遣の臨時中会が開催されます。

稚内萩見伝道所は、現住陪餐会員11名、礼拝出席者12名前後、日曜学校生徒3～5名の小さな群れです。井上一央牧師が亡き後の稚内萩見伝道所は無牧だろうと教会員の誰もが思っていたことです。浅井永教師に牧師になって頂き、力を合わせ、この地のまだ救われていない魂のために働いていきたいと思えます。お預かりしているタラントンを使って。

わたしたちの内に働く御力によって、わたしたちが求めたり、思ったりすることすべてを、はるかに超えてかなえることのおできになる神様に感謝申し上げます。



